

『イエス・キリスト・インカーネーション』（イエス・キリストによる福音書）

2024年11月27日

『大天使ミカエルインカーネーション』を書き終わった神は、昇天前にこれを書く余力も残っていた。

イエス・キリストはミカエルとは違う姿で来た。



このイエス・キリストが実像に一番近い。

今回、前回の初臨から2000年後くらいに来た理由は
遅すぎると人類はイエス・キリストを忘れ去ってしまうためである。

聖書の預言の歴史から考えてみて
キリストが来るという預言があって数百年という初臨のときは来たのだから
再臨のときもこの前例から大きく外さないようにしようと考えていた。

早く再臨すれば、早く教えの種がまかれることになるので
人類の滅びの時期は遅らせることができるから
今回福音を伝えにきたことは天の恵みである。

これは、俺の自叙伝だ。

第1話「主の初臨」

1. 処女懐胎

イエス・キリストは、処女が身ごもった。
この処女の名は、マリアという名であった。

これは真実である。

イエス・キリストは実在した。
この世界だけでなく、あらゆる世界にイエス・キリストは実在する。

歴史において、処女が身ごもったことは、この一件しかない。
これは実際に起きたことである。

なぜ、処女が身ごもったのか。
それは、世界には、ただ一人だけ神がいるからである。
この神は、人間とは違い、原罪がないということをあかすために、処女に身ごもらせたのである。

2. 受胎告知

この処女には、大天使ガブリエルからの受胎告知があった。
これは、ルカによる福音書の 1:26-38 に書いてあるので、そこを読めばよい。

なぜ、このようなことが起きたのかというと
主は、産まれることを巫女に知らせたためである。
この巫女とは、イエスの肉の母マリアのことであった。
マリアは、大天使ガブリエルの分霊だったため、大天使ガブリエルの巫女だった。

第2話 ベツレヘムでの預言の成就

俺（イエス）が産まれる前になるとイエスの父ヨセフは、マリアを連れて、ナザレからベツレヘムにあるヨセフの先祖の家に旅をした。
皇帝アウグストゥスが命じた人口調査に登録するためであった。
このベツレヘムは、旧約聖書でキリストが生まれる地とされていたからである（ミカ 5:2）。

マリアは、ベツレヘムで俺を産んだが、当時、宿屋には俺を置く所がなかったため、マリアは俺を飼い葉桶に置いた。

この辺りはルカによる福音書第2章に書かれている内容と同じである。

ルカによる福音書

2:1 そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。
2:1 Now it happened in those days, that a decree went out from Caesar Augustus that all the world should be enrolled.

2:2 これは、クレニオがシリアの総督であった時に行われた最初の人口調査であった。
2:2 This was the first enrollment made when Quirinius was governor of Syria.

2:3 人々はみな登録をするために、それぞれ自分の町へ帰って行った。
2:3 All went to enroll themselves, everyone to his own city.

2:4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
2:4 Joseph also went up from Galilee, out of the city of Nazareth, into Judea, to the city of David, which is called Bethlehem, because he was of the house and family of David;

2:5 それは、すでに身重になっていたいいなづけの妻マリヤと共に、登録をするためであった。

2:5 to enroll himself with Mary, who was pledged to be married to him as wife, being pregnant.

2:6 ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、

2:6 It happened, while they were there, that the day had come that she should give birth.

2:7 初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。

2:7 She brought forth her firstborn son, and she wrapped him in bands of cloth, and laid him in a feeding trough, because there was no room for them in the inn.

第3話 ベツレヘムの星、東方三博士の謁見

この頃、東の国で誰も見たことがない星が西の空に見えた。

そのときのことは、ここに書いておいた。

<https://maxillofacialsurgery.seesaa.net/article/504406546.html>

東方の三博士カスパール、メルヒオール、バルタザールは、ユダヤ人の王が生まれた事を知り、その星に向かって旅を始めた。

博士達は、途中でユダヤのヘロデ王に会い、その後で星に導かれて更にベツレヘムへの道を進み、星が止まった真下に、母マリアに抱かれたイエスを見出して、イエスに敬意を払って礼拝し、高価な珍しい贈り物を捧げた。

この辺りもルカによる福音書第2章の記述と同じだから、ルカによる福音書を引用し、この辺りの記載にする。

ルカによる福音書

2:8 さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

2:8 There were shepherds in the same country staying in the field, and keeping watch by night over their flock.

2:9 すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

2:9 Behold, an angel of the Lord stood by them, and the glory of the Lord shone around them, and they were terrified.

2:10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

2:10 The angel said to them, "Don't be afraid, for behold, I bring you good news of great joy which will be to all the people.

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

2:11 For there is born to you, this day, in the city of David, a Savior, who is Christ the Lord.

2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

2:12 This is the sign to you: you will find a baby wrapped in strips of cloth, lying in a feeding trough."

2:13 するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒にあって神をさんびして言った、

2:13 Suddenly, there was with the angel a multitude of the heavenly army praising God, and saying,

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

2:14 "Glory to God in the highest, on earth peace, good will toward men."

2:15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

2:15 It happened, when the angels went away from them into the sky, that the shepherds said one to another, "Let's go to Bethlehem, now, and see this thing that has happened, which the Lord has made known to us."

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。

2:16 They came with haste, and found both Mary and Joseph, and the baby was lying in the feeding trough.

2:17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

2:17 When they saw it, they publicized widely the saying which was spoken to them about this

child.

2:18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。

2:18 All who heard it wondered at the things which were spoken to them by the shepherds.

2:19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。

2:19 But Mary kept all these sayings, pondering them in her heart.

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

2:20 The shepherds returned, glorifying and praising God for all the things that they had heard and seen, just as it was told them.

マタイによる福音書には、こうある。

2:11 そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。

2:11 They came into the house and saw the young child with Mary, his mother, and they fell down and worshiped him. Opening their treasures, they offered to him gifts: gold, frankincense, and myrrh.

今回は何の意味もなく星をつくったのではなく、星というのは、五芒星のことなので、イエス・キリストが磔刑で受けた5つの傷を意味しているキリスト教のシンボルなのだ。十字架と同じ意味がある。

『大天使ミカエルインカーネーション』でも、神にとってすら正しい未来を見せる「無限の可能性を持つ希望の星だ」と俺（大天使ミカエル）は高次元の神界で神から言われたが、星の形は、人間の頭があって、手足があって、人間は5つの形で機能している。

これでは違法として動くのであれば、YHVHという4文字で描く十字をはりつけて生きろというたがにはめる意味、つまり、キリスト教とは「神の定めた戒律に生きろ」という意味があるのだ。

第4話 ヘロデ大王の幼児大虐殺

当時のユダヤの支配者ヘロデ大王は、“新たにユダヤ人の王となる子”（イエス・キリスト）がベツレヘム（ベトレヘム）に生まれたと聞いて怯え、ベツレヘムで2歳以下の男児を全て殺害させた。

この辺りは、マタイによる福音書に書いてある通りなので、マタイによる福音書を引用し、ここの記述とする。

マタイによる福音書

2:12 そして、夢でヘロデのところに帰るなどのみ告げを受けたので、他の道をとって自分の国へ帰って行った。

2:12 Being warned in a dream that they shouldn't return to Herod, they went back to their own country another way.

2:13 彼らが帰って行ったのち、見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい。そして、あなたに知らせるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが幼な子を捜し出して、殺そうとしている」。

2:13 Now when they had departed, behold, an angel of the Lord appeared to Joseph in a dream, saying, "Arise and take the young child and his mother, and flee into Egypt, and stay there until I tell you, for Herod will seek the young child to destroy him."

2:14 そこで、ヨセフは立って、夜の中に幼な子とその母とを連れてエジプトへ行き、

2:14 He arose and took the young child and his mother by night, and departed into Egypt,

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにとどまっていた。それは、主が預言者によって「エジプトからわが子と呼ばしめた」と言われたことが、成就するためである。

2:15 and was there until the death of Herod; that it might be fulfilled which was spoken by the Lord through the prophet, saying, "Out of Egypt I called my son." {Hosea 11:1}

2:16 さて、ヘロデは博士たちにだまされたと知って、非常に立腹した。そして人々をつかわし、博士たちから確かめた時に基いて、ベツレヘムとその附近の地方とにいる二歳以下の男の子を、ことごとく殺した。

2:16 Then Herod, when he saw that he was mocked by the wise men, was exceedingly angry, and sent out, and killed all the male children who were in Bethlehem and in all the surrounding countryside, from two years old and under, according to the exact time which he had learned from the wise men.

2:17 こうして、預言者エレミヤによって言われたことが、成就したのである。

2:17 Then that which was spoken by Jeremiah the prophet was fulfilled, saying,

2:18 「叫び泣く大いなる悲しみの声がラマで聞えた。ラケルはその子らのためになげいた。子らがもはやいないので、慰められることさえ願わなかった」。

2:18 "A voice was heard in Ramah, lamentation, weeping and great mourning, Rachel weeping for her children; she wouldn't be comforted, because they are no more." {Jeremiah 31:15}

2:19 さて、ヘロデが死んだのち、見よ、主の使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて言った、

2:19 But when Herod was dead, behold, an angel of the Lord appeared in a dream to Joseph in Egypt, saying,

2:20 「立って、幼な子とその母を連れて、イスラエルの地に行け。幼な子の命をねらっていた人々は、死んでしまった」。

2:20 "Arise and take the young child and his mother, and go into the land of Israel, for those who sought the young child's life are dead."

2:21 そこでヨセフは立って、幼な子とその母とを連れて、イスラエルの地に帰った。

2:21 He arose and took the young child and his mother, and came into the land of Israel.

2:22 しかし、アケラオがその父ヘロデに代ってユダヤを治めていると聞いたので、そこへ行くことを恐れた。そして夢でみ告げを受けたので、ガリラヤの地方に退き、

2:22 But when he heard that Archelaus was reigning over Judea in the place of his father, Herod, he was afraid to go there. Being warned in a dream, he withdrew into the region of Galilee,

2:23 ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちによって、「彼はナザレ人と呼ばれるであろう」と言われたことが、成就するためである。

2:23 and came and lived in a city called Nazareth; that it might be fulfilled which was spoken through the prophets: "He will be called a Nazarene."

なぜ、俺の弟子達が、このように詳しく知っていたかという俺が彼らにほどほど詳しく話したからである。

彼らは、その通りに福音書を書いたため、俺の記述の作業が省けたのである。

追加する記述は、なぜ、ヘロデはこのようなことをしたのかということである。

弟子達には、天の奥義を詳しくは書かせなかった。

これは、俺が再臨して書くためであった。

人間は運命というものに操られている。

神が定めた定めには逆らうことができないのである。

よって、聖書の預言通りに、これらの出来事が成就していったのである。

第5話 子の育ち

肉の父ヨセフは、ガリラヤのナザレに住んだ。

よって、俺もナザレで暮らしていた（ルカによる福音書 2:39）。

ルカによる福音書

2:39 両親は主の律法どおりすべての事をすませたので、ガリラヤへむかい、自分の町ナザレに帰った。

2:39 When they had accomplished all things that were according to the law of the Lord, they returned into Galilee, to their own city, Nazareth.

ここから12歳くらいまで俺の話は福音書には書かれていない。

なぜなら、神にとって、それは書きたくないという内容だったからだ。

なぜなら、神とはいえ、その使命は、子のときにする訳ではない。

子のときは、子のときとしての生活がある。

それは、肉の父母から生活のことを学んだり、特に肉の父からは大工の仕事の話を習っていた。

このようなことを福音書に書いてしまうことは、あまり良い内容ではない。

福音書があまり内容がない福音書になってしまうためである。

そういう訳で、実は弟子達には、この時の話はしていない。

よって、弟子が書いた著述では、次の登場は、12歳の話になっている。

ここは、ルカによる福音書の第2章40節からの話の通りだから、この部分を引用し、俺の著述とかえる。

ルカによる福音書

2:40 幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあつた。

2:40 The child was growing, and was becoming strong in spirit, being filled with wisdom, and the grace of God was upon him.

2:41 さて、イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた。

2:41 His parents went every year to Jerusalem at the feast of the Passover.

2:42 イエスが十二歳になった時も、慣例に従って祭のために上京した。

2:42 When he was twelve years old, they went up to Jerusalem according to the custom of the feast,

2:43 ところが、祭が終って帰るとき、少年イエスはエルサレムに居残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。

2:43 and when they had fulfilled the days, as they were returning, the boy Jesus stayed behind in Jerusalem. Joseph and his mother didn't know it,

2:44 そして道連れの中にいることと思いき、一日路を行ってしまい、それから、親族や知人の中を捜しはじめたが、

2:44 but supposing him to be in the company, they went a day's journey, and they looked for him among their relatives and acquaintances.

2:45 見つからないので、捜しまわりながらエルサレムへ引返した。

2:45 When they didn't find him, they returned to Jerusalem, looking for him.

2:46 そして三日の後に、イエスが宮の中で教師たちのまん中にすわって、彼らの話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。

2:46 It happened after three days they found him in the temple, sitting in the midst of the teachers, both listening to them, and asking them questions.

2:47 聞く人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた。

2:47 All who heard him were amazed at his understanding and his answers.

2:48 両親はこれを見て驚き、そして母が彼に言った、「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです」。

2:48 When they saw him, they were astonished, and his mother said to him, "Son, why have you treated us this way? Behold, your father and I were anxiously looking for you."

2:49 するとイエスは言われた、「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」。

2:49 He said to them, "Why were you looking for me? Didn't you know that I must be in my Father's house?"

2:50 しかし、両親はその語られた言葉を悟ることができなかった。

2:50 They didn't understand the saying which he spoke to them.

これは、何をしていた話かということを説明する。

通常、ユダヤ人の男子は13歳でバル・ミツバーというユダヤ教徒の成人式を行い、宗教的に大人の仲間入りが認められる。その準備は12歳から始まる。男子の義務は過越の祭りと七週の祭り、仮庵の祭をエルサレムで守ることであった。

特に重要であるのが過越の祭りで、巡礼者たちはエルサレムへ行って、最低2日間滞在することを義務付けられていた。

12歳になった俺は、両親と一緒にエルサレムへ巡礼した。

一家は義務を果たして帰路につくが、両親は途中で俺がいないことに気づき、エルサレムまで戻った。

3日後に、両親はエルサレムの神殿で、ラビたちと語り合っていた俺を見つけた。

その聖書理解に学者たちが舌を巻いた。

ルカが記録しているこの出来事は、俺が旧約聖書の極意をあらかじめ獲得していたことを示している。

両親はどうしてこのようなことをしたのかと俺に尋ねた。

俺は、逆にどうして自分を探したのかと両親に問うた。

この出来事は、子は、この当時において既に両親の考えと行いから既に離れていたことを示している。

第6話 洗礼者ヨハネによる洗礼

次のエピソードは、俺が30歳くらいになったときに、ヨルダン川に行って、洗礼者ヨハネから洗礼を受けたことである。

ルカ1:5と1:36を読めば、肉の母マリアと洗礼者ヨハネの母エリサベツの親戚であっ

たことが分かる。

つまり、俺と洗礼者ヨハネはいとこ同士であった。

ルカによる福音書

1:5 ユダヤの王ヘロデの世に、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという者がいた。その妻はアロン家の娘のひとりで、名をエリサベツといった。

1:5 There was in the days of Herod, the king of Judea, a certain priest named Zacharias, of the priestly division of Abijah. He had a wife of the daughters of Aaron, and her name was Elizabeth.

1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

1:36 Behold, Elizabeth, your relative, also has conceived a son in her old age; and this is the sixth month with her who was called barren.

この洗礼者ヨハネは、弟子ペトロと同じ霊を持つ者であった。

この霊とは、大天使ラファエルのことである。

大天使ラファエルは、『大天使ミカエルインカーネーション』を学ぶと分かる通り、悪魔の王ベルゼブブや宗教上ヤーウェの神と対立していた神バアルのことである。

このときの洗礼の様子は、マタイ 3:13-17、マルコ 1:9-11、ルカ 3:21-23 に書かれている。

ここでは、マタイによる福音書を引用して俺の記述とかえる。

マタイによる福音書

3:13 そのときイエスは、ガリラヤを出てヨルダン川に現れ、ヨハネのところに来て、バプテスマを受けようとされた。

3:13 Then Jesus came from Galilee to the Jordan to John, to be baptized by him.

3:14 ところがヨハネは、それを思いとどませようとして言った、「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか」。

3:14 But John would have hindered him, saying, "I need to be baptized by you, and you come to me?"

3:15 しかし、イエスは答えて言われた、「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」。そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした。

3:15 But Jesus, answering, said to him, "Allow it now, for this is the fitting way for us to fulfill all righteousness." Then he allowed him.

3:16 イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。

3:16 Jesus, when he was baptized, went up directly from the water: and behold, the heavens were opened to him. He saw the Spirit of God descending as a dove, and coming on him.

3:17 また天から声があって言った。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

3:17 Behold, a voice out of the heavens said, "This is my beloved Son, with whom I am well pleased."

ここでいう正しいこととは、どういうことをいうかということ
神の権威をあかすということにあったのだ。

洗礼者ヨハネという男は、かなりの祭司の家系であった。

その祭司のポジションを捨てて、ヨルダン川で、みすばらしい格好をして、人々に救いの言葉を説いていた。

この男の前に俺が現れて、この神の言葉を聞かせた。

このときの天の声とは神の言葉である。

この神霊体験は、今回の『大天使ミカエルインカーネーション』でも洗礼を受けるときに同様の経験をした。

洗礼者ヨハネがカトリックの主任司祭におきかわり、この主任司祭が同じ体験をした。

当時と同じく初日目で洗礼を受けたが、通常キリスト教の洗礼は、洗礼を受けるまでには準備期間として1年からが目安になるため、初日目で神の霊からの命令が主任司祭におりて洗礼を受けることが、どれだけ異例であったかを示している。

この洗礼のとき、俺は、マタイによる福音書25章の下記預言を成就するため、獄にいた。
これは、『大天使ミカエルインカーネーション』の地上編第15話と16話の話で書いた内容である。

25:31 人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであらう。

25:31 "But when the Son of Man comes in his glory, and all the holy angels with him, then he will sit on the throne of his glory.

25:32 そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らを

より分け、

25:32 Before him all the nations will be gathered, and he will separate them one from another, as a shepherd separates the sheep from the goats.

25:33 羊を右に、やぎを左におくであろう。

25:33 He will set the sheep on his right hand, but the goats on the left.

これは、再臨のときになる（すなわち、今）「最後の審判」のことである。

25:36 裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。

25:36 I was naked, and you clothed me. I was sick, and you visited me. I was in prison, and you came to me.'

25:43 旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気のときや、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。

25:43 I was a stranger, and you didn't take me in; naked, and you didn't clothe me; sick, and in prison, and you didn't visit me.'

このときの様子は、マタイによる福音書 24 章でノアの方舟のようだと書かれているので、右に置かれる大人しいほうの羊は少なかった。

マタイによる福音書

24:37 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。

24:37 "As the days of Noah were, so will be the coming of the Son of Man.

つまり、獄にたずねに来た人間は少ないが、その主任司祭は無料で俺をたずねに来て洗礼の儀式を行ったのだ。

ルカによる福音書

3:23 イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であって、人々の考えによれば、ヨセフの子であった。ヨセフはヘリの子、

3:23 Jesus himself, when he began to teach, was about thirty years old, being the son (as was supposed) of Joseph, the son of Heli,

第 7 話 イエスの修業

この洗礼を受けた後、俺は、一定期間、洗礼者ヨハネと共に、聖書の話や当時のユダヤ教の教義の流行の話についての情報交換をした。

洗礼者ヨハネと話して得た内容としては、ダニエル書やイザヤ書は、やはり自分に関わってきて大事だなという認識を持った。あとは、ダビデや詩編も大切だと思った。

・ 40 日の断食修業

この後、俺は、神の霊に導かれて、ユダヤ砂漠に断食をしに行った。

この時の様子は、共観福音書を読めば分かるが、この俺の自叙伝では、この時の様子をマタイによる福音書から引用する。

マタイによる福音書

4:1 さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。悪魔に試みられるためである。

4:1 Then Jesus was led up by the Spirit into the wilderness to be tempted by the devil.

4:2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。

4:2 When he had fasted forty days and forty nights, he was hungry afterward.

4:3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。

4:3 The tempter came and said to him, "If you are the Son of God, command that these stones become bread."

4:4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」。

4:4 But he answered, "It is written, 'Man shall not live by bread alone, but by every word that proceeds out of the mouth of God.'" {Deuteronomy 8:3}

4:5 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて

4:5 Then the devil took him into the holy city. He set him on the pinnacle of the temple,

4:6 言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんなさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。

4:6 and said to him, "If you are the Son of God, throw yourself down, for it is written, 'He will put his angels in charge of you.' and, 'On their hands they will bear you up, so that you don't dash your foot against a stone.'" {Psalm 91:11-12}

4:7 イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」。

4:7 Jesus said to him, "Again, it is written, 'You shall not test the Lord, your God.'"

{Deuteronomy 6:16}

4:8 次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて

4:8 Again, the devil took him to an exceedingly high mountain, and showed him all the kingdoms of the world, and their glory.

4:9 言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。

4:9 He said to him, "I will give you all of these things, if you will fall down and worship me."

4:10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。

4:10 Then Jesus said to him, "Get behind me, {TR and NU read "Go away" instead of "Get behind me"} Satan! For it is written, 'You shall worship the Lord your God, and you shall serve him only.'" {Deuteronomy 6:13}

4:11 そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた。

4:11 Then the devil left him, and behold, angels came and served him.

神の修業とは、こういうものなのだが、「荒野」とあるのは、ユダヤ砂漠のことだ。

イスラエルは国土の60%ほどが砂漠地帯といわれているほど砂漠が多いが、俺はエルサレムのすぐ東にあったユダヤ砂漠に向かった。

なぜ、ユダヤ砂漠だったかというと

旧約聖書では、ダビデとその部下サウルから身を隠すために砂漠に逃げたとある。

預言者エリヤも、砂漠に逃げたと書いてある。

ダビデとサウルは、『サムエル記上』に出てくる。

イスラエルの王を決めるときに、サウルはダビデを妬み、ダビデに危害を加えようとして追ったが、ダビデのほうは「サウルは神から選ばれた人だ（油を注がれた人だ）」という理由により、ダビデはサウルに攻撃をせずに荒野に逃げたとある。サムエル記上の23章の終わりにくりに、荒野に逃げて、そこに住んだとある。

23:15 さてダビデはサウルが自分の命を求めて出てきたので恐れた。その時ダビデはジフの荒野のホレシにいたが、 23:15 David saw that Saul had come out to seek his life. David was in the wilderness of Ziph in the wood.

23:19 その時ジフびとはギベアにいるサウルのもとに上って行き、そして言った、「ダビデは、荒野の南にあるハキラの丘の上のホレシの要害に隠れて、われわれと共にいるではありませんか。

23:19 Then the Ziphites came up to Saul to Gibeah, saying, "Doesn't David hide himself with us in the strongholds in the wood, in the hill of Hachilah, which is on the south of the desert?"

23:24 彼らは立って、サウルに先立ってジフへ行った。さてダビデとその従者たちは荒野の南のアラバにあるマオンの荒野にいた。

23:24 They arose, and went to Ziph before Saul: but David and his men were in the wilderness of Maon, in the Arabah on the south of the desert.

荒野を英語では desert と書いているように何も無い砂漠のことを書いている。

ヘブライ語の旧約聖書だとこれは、ユダヤ砂漠だと読める。

列王記上

19:3 そこでエリヤは恐れて、自分の命を救うために立って逃げ、ユダに属するベエルシバへ行って、しもべをそこに残し、

19:4 自分は一日の道のりほど荒野にはいつて行って、れだまの木の下に座し、自分の死を求めて言った、「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」。

列王記上では、バアルの神の預言者とエリヤとの対決が書かれている。

列王記上

19:5 彼はれだまの木の下に伏して眠ったが、天の使が彼にさわり、「起きて食べなさい」と言ったので、

19:6 起きて見ると、頭のそばに、焼け石の上で焼いたパン一個と、一びんの水があった。彼は食べ、かつ飲んでまた寝た。

19:7 主の使は再びきて、彼にさわって言った、「起きて食べなさい。道が遠くて耐えられないでしょうから」。

19:8 彼は起きて食べ、かつ飲み、その食物で力づいて四十日四十夜行って、神の山ホレブに着いた。

19:9 その所で彼はほら穴にはいつて、そこに宿ったが、主の言葉が彼に臨んで、彼に言われた、「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。

19:10 彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀をもってあなたの預言者たちを殺したのです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」。

19:11 主は言われた、「出て、山の上で主の前に、立ちなさい」。その時主は通り過ぎられ、

主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風の後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。

19:12 地震の後に火があったが、火の中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。

19:13 エリヤはそれを聞いて顔を外套に包み、出てほら穴の口に立つと、彼に語る声が聞えた、「エリヤよ、あなたはここで何をしているのか」。

19:14 彼は言った、「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でありました。イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、刀であなたの預言者たちを殺したからです。ただわたしだけ残りましたが、彼らはわたしの命を取ろうとしています」。

19:15 主は彼に言われた、「あなたの道を帰って行って、ダマスコの荒野におもむき、ダマスコに着いて、ハザエルに油を注ぎ、スリヤの王としなさい。

19:16 またニムシの子エヒウに油を注いでイスラエルの王としなさい。またアベルメホラのシャパテの子エリシャに油を注いで、あなたに代って預言者としなさい。

19:17 ハザエルのつるぎをのがれる者をエヒウが殺し、エヒウのつるぎをのがれる者をエリシャが殺すであろう。

19:18 また、わたしはイスラエルのうちに七千人を残すであろう。皆バアルにひぎをかがめず、それに口づけしない者である」。

つまり、天使が来て、天使は疲れ果てたエリヤにさわって、憐れみ深くこう言ったとある。「起きて食べなさい。道が遠くて耐えられないでしょうから。

エリヤは起きて食べ、かつ飲み、その食物で力ついて40日40夜行って、神の山ホレブに着いたとある。

そこでヤーウエの神と出会って、命令を受けることができたので、俺も、ユダヤ砂漠で40日40夜断食をして、ヤーウエに会って、ヤーウエの教えの勝利のために戦略を授かることが、聖なる儀式になっていた。

死んで3日目に生き返ってからも、その後40日間神の国の教えを説いてから帰天している。この40日間は、民数記14：33－34にあるイスラエル民族がカナンに行くまでに「40年さまよった」という数に由来している。

この40に何の意味があるのかというと

これは、どこの権威ある神学部でも教会でも説明されたことがないのだが

ラザロは4日間も墓にいたのによみがえったとあるが

YHVH（またはYHWH）の神聖4文字（テトラグラマトン）が4文字だから

俺は4を神聖な数字として定め、

神の使命として行う者の場合、それに4にまつわる試練的な数字にしていたのだ。

つまり、4は特別に聖別された数字であり、その意味は神 YHVH を伏せた意味になっている。

よって、4を使っている場合、神 YHVH をたたえる内容になっている。

このような理由から俺の本名にも4という字が使われている。

今回の再臨のとき、『大天使ミカエルインカーネーション』では3か月（90日）間断食を行った。水も飲まなかった。

今回は何で3か月だったかという今回で全てを終わらせるので以前の40日に勝るものにして三位一体の三の月で行った。

砂漠ではなく日本で行ったという理由からでもある。

40でも90でも多いほどよかった。

決めるのは俺（神）だから、俺が決めるなら4を裏切って3（か月）でもいい。

これは、人間ができることではないことを示すために行った。

神の力でなければ、これはできないことである。

ヘトヘトだったのかというそうではなく、ずっと元気だった。

過去の預言者の40日を超えて

3か月も飲み食いせず健康で生きていられたのは神の創造の力があつたためである。

神から知らされて気づいたら40日や3か月たっていたというだけで

自分は元気でまだまだできるし、その状態が幸せだと思えていたから何年でもやろうと思っていたら、神から止められて、使命の旅に送り出されるという具合だった。

ユダヤ砂漠は暑くて何も無い所だ。

気温は60度くらいあつた。

特に日射が強いときは70度にも達する。8月の平均気温で45度くらいある。

そして、ものすごく乾燥がきつい。

こういう所で、岩穴から水が出る所があるものの飲まずに断食をして40日を過ごすことは、よほど神の霊で守られているといえるし、神の予定でそうなったといえる。





こういう所で当時修業をしていた。

このとき、ヤーウェが変装した悪魔が試練を行ってきた。

その内容は、皆が共観福音書で知る内容である。

ここは、マタイによる福音書から引用する。

マタイによる福音書

4:1 さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。悪魔に試みられるためである。

4:1 Then Jesus was led up by the Spirit into the wilderness to be tempted by the devil.

4:2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。

4:2 When he had fasted forty days and forty nights, he was hungry afterward.

4:3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。

4:3 The tempter came and said to him, "If you are the Son of God, command that these stones become bread."

4:4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」。

4:4 But he answered, "It is written, 'Man shall not live by bread alone, but by every word that proceeds out of the mouth of God.'" {Deuteronomy 8:3}

4:5 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて

4:5 Then the devil took him into the holy city. He set him on the pinnacle of the temple,

4:6 言った、「もしあなたが神の子であるなら、下へ飛びおりてごらんなさい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。

4:6 and said to him, "If you are the Son of God, throw yourself down, for it is written, 'He will put his angels in charge of you.' and, 'On their hands they will bear you up, so that you don't dash your foot against a stone.'" {Psalm 91:11-12}

4:7 イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」。

4:7 Jesus said to him, "Again, it is written, 'You shall not test the Lord, your God.'" {Deuteronomy 6:16}

4:8 次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて

4:8 Again, the devil took him to an exceedingly high mountain, and showed him all the kingdoms of the world, and their glory.

4:9 言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。

4:9 He said to him, "I will give you all of these things, if you will fall down and worship me."

4:10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。

4:10 Then Jesus said to him, "Get behind me, {TR and NU read "Go away" instead of "Get behind me"} Satan! For it is written, 'You shall worship the Lord your God, and you shall serve him only.'" {Deuteronomy 6:13}

4:11 そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた。

4:11 Then the devil left him, and behold, angels came and served him.

答弁の内容は何でも良かったのだが、聖書の内容の引用で返すことが望ましかった。
ここで俺が引用した内容は、これだけが教えだと言ってもいい重要な内容になっている。
列王記上からパン1個を引用してきたのが悪魔だったが
こちらが引用した箇所は大切な教えであり、「主を試みてはならない」
「何を与えと言われても、神に礼拝し、ただ神にのみ仕える」という絶対服従の姿勢で結ばれている。
この結びの教えが非常に重要で、
これは、「心を尽くし、力を尽くし、あなたの主である神に全力で仕えろ」という聖書の最重要の教えになっている。
人間にとって現世欲との戦いになっているが、40日断食をして欲を超越して、これらの世界の全ての欲を超越した無私の精神でなければ、この福音をもたらす神の使いはできないということ（を示唆している）である。

※ここでは何で4なのかという数字の意味が重要になっているので、これは神自らでしか説明できないことだったので、よくおさえておくように。
つまり、これは弟子ではなく、イエス・キリスト（神）自らが書いている聖書（福音書）なのである。

※更に書くと、十字架も点を4つ打って書く印になっている。
つまり、カインの額に書いた印も十字の形だったと推測できるなら気づきが鋭いと思うが、その通りである。
この十字は、安倍晴明の五行の書き方みたいになるが、「Y・H・V・H」と俺なら言っている身分だし、そう念じて書くことが、秘法の1つになっている。

罪を背負って生きることが、YHVHの仕組みで生きていることになっている。
では、罪とは何なのか。
それは、人間の原罪であるから、創世記をよく読んでおくように。
可愛い女の子の声優に創世記を読ませておいたから、
この音声データなら、何度でも聴いて学べるはずだ。

再生できない場合、ダウンロードは  [こちら](#)

（音量が小さいが、この小さな音量でないところにアップロードできる容量ではないから、分割してアップロードすると俺にとって手間だから、各自がボリュームを上げて聴くか、ダウンロードをして音量を8倍くらいに増幅させて書き出せばいい。）

ここからは教えながら、奇跡を見せていく伝道の旅をしていった。

ざっと全体の行程を地図で把握するようになる。



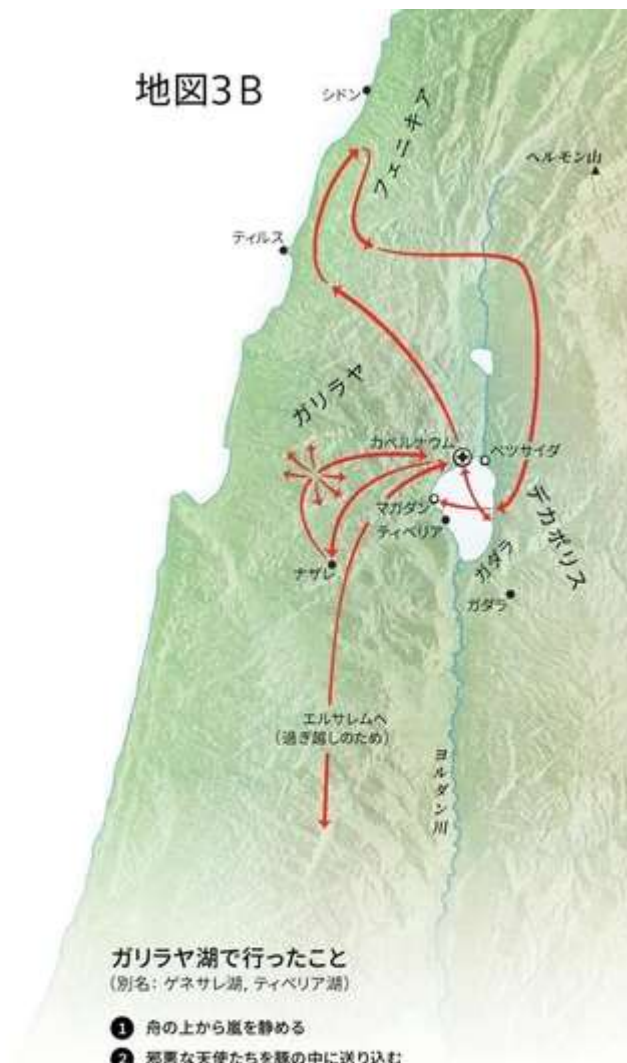
地図2



地図3A



地図3B



ガリラヤ湖で行ったこと
(別名: ゲネサレ湖, ティベリア湖)

- ① 舟の上から嵐を静める
- ② 邪悪な天使たちを豚の中に送り込む
- ③ 5000人に食事をさせる
- ④ 湖の上を歩く
- ⑤ 4000人に食事をさせる
- ⑥ 山上の垂訓をした場所

北

地図4



地図5



徒歩だったから、偉い主（しゅ）に遠隔地に行かせることはできないから
ずっと同じ狭い地域をぐるぐるぐる周回しているだけで
3年くらいで終わらせておかないと頭がおかしいことになるから
イエスの伝道の価値を高い価値として維持するためには
3年くらいで閉じておいて
教えも十分伝えないまま閉じて聖書にしておけば
再臨してそれを深く伝えに来る俺の価値が増すために
こうしておいた。

第8話 伝道と奇跡

神学部ではきまってこの辺りは（よく分かってもしない人間のくせに）ぐちゃぐちゃと細かく時間をかけて講義される所だ。

結局、そんな行程やいついつやったという年表的な内容が重要ではないから、イベントして、多くの奇跡を起こしながら、ガリラヤ→カファルナウム→エルサレム→ベタニヤ→また同じようなルートで周回していたようなイメージでいい。本人も、そんなにきっちり覚えていないし、漠然とこういう円形が基本ルートだと分かりながら、次は神から言われた所に行くというだけだったので、地理と行程を覚えることに意味は無い。別の次元の世界だったら、場所が変わるし、行った本人にとって覚える意味がないからである。本人にとっても、誰にとっても、教えた内容が重要である。

まず、2枚目の地図を見ろ。

ここで、荒野からベタニアに行った。

ここで、最初の弟子がついてきた。

ここは、マタイによる福音書から引用し、俺の言葉とかえる。

マタイによる福音書

4:12 さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。

4:12 Now when Jesus heard that John was delivered up, he withdrew into Galilee.

4:13 そしてナザレを去り、ゼブルンとナフタリとの地方にある海べの町カペナウムに行って住まれた。

4:13 Leaving Nazareth, he came and lived in Capernaum, which is by the sea, in the region of Zebulun and Naphtali,

4:14 これは預言者イザヤによって言われた言が、成就するためである。

4:14 that it might be fulfilled which was spoken through Isaiah the prophet, saying,

4:15 「ゼブルンの地、ナフタリの地、海に沿う地方、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤ、

4:15 "The land of Zebulun and the land of Naphtali, toward the sea, beyond the Jordan, Galilee of the Gentiles,

4:16 暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」。

4:16 the people who sat in darkness saw a great light, to those who sat in the region and shadow of death, to them light has dawned." {Isaiah 9:1-2}

4:17 この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。

4:17 From that time, Jesus began to preach, and to say, "Repent! For the Kingdom of Heaven is at hand."

4:18 さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。

4:18 Walking by the sea of Galilee, he {TR reads "Jesus" instead of "he"} saw two brothers: Simon, who is called Peter, and Andrew, his brother, casting a net into the sea; for they were fishermen.

4:19 イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。

4:19 He said to them, "Come after me, and I will make you fishers for men."

4:20 すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。

4:20 They immediately left their nets and followed him.

4:21 そこから進んで行かれると、ほかのふたりの兄弟、すなわち、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイと一緒に、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。そこで彼らをお招きになると、

4:21 Going on from there, he saw two other brothers, James the son of Zebedee, and John his brother, in the boat with Zebedee their father, mending their nets. He called them.

4:22 すぐ舟と父とをおいて、イエスに従って行った。

4:22 They immediately left the boat and their father, and followed him.

4:23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

4:23 Jesus went about in all Galilee, teaching in their synagogues, preaching the Good News of the Kingdom, and healing every disease and every sickness among the people.

4:24 そこで、その評判はシリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをイエスのところに連れてきたので、これらの人々をおいやしになった。

4:24 The report about him went out into all Syria. They brought to him all who were sick, afflicted with various diseases and torments, possessed with demons, epileptics, and paralytics; and he healed them.

4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの向こうから、おびただしい群衆がきてイエスに従った。

4:25 Great multitudes from Galilee, Decapolis, Jerusalem, Judea and from beyond the Jordan followed him.

5:1 イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちがみもとに近寄ってき

た。

5:1 Seeing the multitudes, he went up onto the mountain. When he had sat down, his disciples came to him.

5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。

5:2 He opened his mouth and taught them, saying,

5:3 「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。

こういう流れで行って行って、山上の垂訓に入っていく。

もう俺はイエス・キリストを7回以上務めたので、色んな世界で7回以上磔になってきたから、大体のルートと為すべきことは頭に入っている。

この次にガリラヤのカナに行って、最初の奇跡といわれているが、最初の奇跡は、どう考えてももっと前だし、ハトの形で神霊が降りてきたりとか、ナタナエルがいちじくの木の下にいたことを霊視していたとか、そういう所を無視してこれを最初の奇跡だと教科書に書いている弟子がいる。

俺が神なのだから、俺が起こしている奇跡はもっと前からだと書かないといけなかった。

ここからは、ヨハネによる福音書に記載がある。

洗礼者ヨハネには色々と弟子がいた。

その弟子から後に俺に弟子になる者がいた。

ヨハネによる福音書には、この弟子のことが書かれている。

ヨハネによる福音書

1:28 これらのことは、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダンの向こうのベタニヤであったのである。

1:28 These things were done in Bethany beyond the Jordan, where John was baptizing.

1:29 その翌日、ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。

1:29 The next day, he saw Jesus coming to him, and said, "Behold, the Lamb of God, who takes away the sin of the world!

1:30 『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この人のことである。

1:30 This is he of whom I said, 'After me comes a man who is preferred before me, for he was before me.'

1:31 わたしはこのかたを知らなかった。しかし、このかたがイスラエルに現れてくださるそのことのために、わたしはきて、水でバプテスマを授けているのである」。

1:31 I didn't know him, but for this reason I came baptizing in water: that he would be revealed to Israel."

1:32 ヨハネはまたあかしをして言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。

1:32 John testified, saying, "I have seen the Spirit descending like a dove out of heaven, and it remained on him.

1:33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。

1:33 I didn't recognize him, but he who sent me to baptize in water, he said to me, 'On whomever you will see the Spirit descending, and remaining on him, the same is he who baptizes in the Holy Spirit.'

1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

1:34 I have seen, and have testified that this is the Son of God."

1:35 その翌日、ヨハネはまたふたりの弟子たちと一緒に立っていたが、

1:35 Again, the next day, John was standing with two of his disciples,

1:36 イエスが歩いておられるのに目をとめて言った、「見よ、神の小羊」。

1:36 and he looked at Jesus as he walked, and said, "Behold, the Lamb of God!"

1:37 そのふたりの弟子は、ヨハネがそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

1:37 The two disciples heard him speak, and they followed Jesus.

1:38 イエスはふり向き、彼らがついてくるのを見て言われた、「何か願いがあるのか」。彼らは言った、「ラビ（訳して言えば、先生）どこにおとまりなのですか」。

1:38 Jesus turned, and saw them following, and said to them, "What are you looking for?" They said to him, "Rabbi" (which is to say, being interpreted, Teacher), "where are you staying?"

1:39 イエスは彼らに言われた、「きてごらん下さい。そうしたらわかるだろう」。そこで彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所を見た。そして、その日はイエスのところに泊まった。時は午後四時ごろであった。

1:39 He said to them, "Come, and see." They came and saw where he was staying, and they stayed with him that day. It was about the tenth hour. {4:00 PM.}

1:40 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとり、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。

1:40 One of the two who heard John, and followed him, was Andrew, Simon Peter's brother.

1:41 彼はまず自分の兄弟シモンに出会って言った、「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。

1:41 He first found his own brother, Simon, and said to him, "We have found the Messiah!" (which is, being interpreted, Christ {"Messiah" (Hebrew) and "Christ" (Greek) both mean "Anointed One".}).

1:42 そしてシモンをイエスのもとにつれてきた。イエスは彼に目をとめて言われた、「あなたはヨハネの子シモンである。あなたをケパ（訳せば、ペテロ）と呼ぶことにする」。

1:42 He brought him to Jesus. Jesus looked at him, and said, "You are Simon the son of Jonah. You shall be called Cephas" (which is by interpretation, Peter).

1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。

1:43 On the next day, he was determined to go out into Galilee, and he found Philip. Jesus said to him, "Follow me."

1:44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。

1:44 Now Philip was from Bethsaida, of the city of Andrew and Peter.

1:45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。

1:45 Philip found Nathanael, and said to him, "We have found him, of whom Moses in the law, and the prophets, wrote: Jesus of Nazareth, the son of Joseph."

1:46 ナタナエルは彼に言った。「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。

1:46 Nathanael said to him, "Can any good thing come out of Nazareth?" Philip said to him, "Come and see."

つまり、洗礼者ヨハネの弟子の内、俺の弟子になった者の一人はアンデレであり、アンデレは俺のことをペトロに言ったと書かれている。二人の弟子の内のもう一人は、あまり大した奴ではなかったため、名前を書かせていない。

ここでナタナエルは、「ナザレから何の良いものが出るというのか」という反語を言ったが、俺はベツレヘムから出ているから預言の通りなのだ。

しかし、それでも俺のことは、当時から預言のメシアだとか奇跡の人だと言われていた。

この話の続きは、ヨハネによる福音書の続きの部分になる。

ヨハネによる福音書

1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人次、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りがない」。

1:47 Jesus saw Nathanael coming to him, and said about him, "Behold, an Israelite indeed, in whom is no deceit!"

1:48 ナタナエルは言った。「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。

1:48 Nathanael said to him, "How do you know me?" Jesus answered him, "Before Philip called you, when you were under the fig tree, I saw you."

1:49 ナタナエルは答えた。「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。

1:49 Nathanael answered him, "Rabbi, you are the Son of God! You are King of Israel!"

1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。

1:50 Jesus answered him, "Because I told you, 'I saw you underneath the fig tree,' do you believe? You will see greater things than these!"

俺はナタナエルに会う前に、ナタナエルがいちじくの木の下にいることを言い当てた。

いちじくは、ユダヤ教やキリスト教では特別な意味を持っていて、創世記ではエデンの園にいちじくの葉があったり、ゼカリヤ書3・10では「その日には、あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木の下といちじくの木の下に招き合うであろう。」と神が支配する時の平和の情景を語っているくらい、いちじくは神聖なものだとされている。

1. いちじくの意味

「主の役にたたないものは枯れよ」という教えが、マタイによる福音書にある。

マタイによる福音書

21:18 朝はやく都に帰るとき、イエスは空腹をおぼえられた。

21:19 そして、道のかたわらに一本のいちじくの木があるのを見て、そこに行かれたが、ただ葉のほかは何も見当らなかった。そこでその木にむかって、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた。

いちじくとは女の子の暗示でもある。

「いちじくの木の下」という言葉が、

この世界の旧約聖書にも
5回出てきたと思うが、
「いちじくの木の下」にいる者は、聖なる者だと
昔から信じられていた。

この「いちじくの木の下」について、旧約聖書から学ばせる。

列王記上

4:25 ソロモンの一生の間、ユダとイスラエルはダンからベエルシバに至るまで、安らかに
おのおの自分たちのぶどうの木の下と、いちじくの木の下に住んだ。

ミカ書

4:4 彼らは皆そのぶどうの木の下に座し、そのいちじくの木の下にいる。彼らを恐れさせる
者はない。これは万軍の主がその口で語られたことである。

ソロモン王の時代にユダヤ民族の王国が平和と繁栄を謳歌したことを象徴する言い方とし
て用いられていた。

神に祝福された平和な状態、戦争や権力者による抑圧から解放された人々の豊かで安定し
た生活を意味している。

イチジクは葉が大きく太陽の光を遮ってくれる安らぎを与える木だ。さらに栄養価の高い果
物を実らせるので「イチジクの木の下に」いるというのは祝福された状態を意味し、当時、
そういわれていた。

今回、俺のインカーネーション（『大天使ミカエルインカーネーション』）でもエンディング
のときに肉の母マリアが「あなたを産む前に、いちじくの実をよく食べていた。母乳がよく
出ると思って。」と言っていたが、聖書を読んだことがない肉の母マリアが、その他では一
切いちじくの実を食べていなかったのに、俺の受肉体を産む前に限って、いちじくの実ばかり
を誰から教わった訳でもないのに毎日毎日食べていた事実は、俺が聖書的な「聖なる存在」
であることを語っている。

ナタナエルがいちじくの木の下で祈っていたくらいで聖なる者といわれるくらいなのだから。

ミカ書とザカリア書にも出てくる。

ミカ書とザカリア書では、祝福が現状を意味するものではなくって、未来の状態を意味す
るものになる。

それは、ダビデ王・ソロモン王の祝福に満ちた王国が滅亡した後、王国が将来復興してイス

ラエルの民が再び「イチジクの木の下に」いられる状態になることを預言するものだ。
このように「イチジクの木の下に」は、実際にあった祝福された状態から、現在は荒廃してしまっただが将来祝福された状態になるという希望をあらわしているものとして使われていた。

列王記 2

18:31 あなたがたはヒゼキヤの言葉を聞いてはならない。アッシリヤの王はこう仰せられる、『あなたがたはわたしと和解して、わたしに降服せよ。そうすればあなたがたはおの自分のぶどうの実を食べ、おの自分のいちじくの実を食べ、おの自分の井戸の水を飲むことができるであろう。』

20:7 そしてイザヤは言った。「干しいちじくのひとかたまりを持ってきて、それを腫物につけさせなさい。そうすれば直るでしょう」。

便利な使われ方だ。

2. 「信じることの益」という教え

マタイによる福音書

21:20 弟子たちはこれを見て、驚いて言った、「いちじくがどうして、こうすぐに枯れたのでしょうか」。

21:21 イエスは答えて言われた。「よく聞いておくがよい。もしあなたがたが信じて疑わなければ、このいちじくにあったようなことが、できるばかりでなく、この山にむかって、動き出して海の中にはいれと言っても、そのとおりになるであろう。

21:22 また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」。

この辺りの内容は、俺が『大天使ミカエルインカーネーション』を半日で書く前に、3日ほどで書き終わらせた逐条聖書に詳しく書いているから、この逐条聖書の抜粋を「十のカテキズム」に引用しているから、この辺りを読んでおけば理解できるだろう。

<https://ameblo.jp/omnipotentonlygodyhwh0/entry-12856219581.html>

<https://ameblo.jp/omnipotentonlygodyhwh0/entry-12856219450.html>

とにかく「いちじく」と出てきたらキリスト教では「神聖」だと考えればよい。

特に深遠な意味が潜んでいる「神聖」さというニュアンスになる。

話は戻るが、ナタナエルは、いちじくの木の下で祈っていることを俺に知られていたため、俺が預言者だと気づいた。

当時、祈るときはいちじくの木の下で祈るものだったので、その祈りの内容すら知られていたとナタナエルは気づいた。

この祈りの内容に偽りがないことを俺に知られていたために、ナタナエルは、俺を「ラビ(先生)」と呼び、「神の子」と呼び、「イスラエルの王」と呼んだ。

この後の様子もヨハネによる福音書に書かれている。

ヨハネによる福音書

1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見たとき、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。

1:50 Jesus answered him, "Because I told you, 'I saw you underneath the fig tree,' do you believe? You will see greater things than these!"

1:51 また言われた、「よくよくあなたがたに言う。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

1:51 He said to him, "Most certainly, I tell you, hereafter you will see heaven opened, and the angels of God ascending and descending on the Son of Man."

3. カナの婚礼

2枚目の地図を見ると分かるように、カナに北上した。

この時の様子はヨハネによる福音書から引用する。

ヨハネによる福音書

2:1 三日目にガリラヤのカナに婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。

2:1 The third day, there was a marriage in Cana of Galilee. Jesus' mother was there.

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれた。

2:2 Jesus also was invited, with his disciples, to the marriage.

2:3 ぶどう酒がなくなったので、母はイエスに言った、「ぶどう酒がなくなっていました」。

2:3 When the wine ran out, Jesus' mother said to him, "They have no wine."

2:4 イエスは母に言われた、「婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません」。

2:4 Jesus said to her, "Woman, what does that have to do with you and me? My hour has not yet come."

2:5 母は僕たちに言った、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さ

い」。

2:5 His mother said to the servants, "Whatever he says to you, do it."

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、それぞれ四、五斗もはいる石の水がめが、六つ置いてあった。

2:6 Now there were six water pots of stone set there after the Jews' way of purifying, containing two or three metretes {2 to 3 metretes is about 20 to 30 U. S. Gallons, or 75 to 115 litres.} apiece.

2:7 イエスは彼らに「かめに水をいっぱい入れなさい」と言われたので、彼らは口のところまでいっぱいに入れた。

2:7 Jesus said to them, "Fill the water pots with water." They filled them up to the brim.

2:8 そこで彼らに言われた、「さあ、くんで、料理がしらのところに持って行きなさい」。すると、彼らは持って行った。

2:8 He said to them, "Now draw some out, and take it to the ruler of the feast." So they took it.

2:9 料理がしらは、ぶどう酒になった水をなめてみたが、それがどこからきたのか知らなかったのもので、(水をくんだ僕たちは知っていた)花婿を呼んで

2:9 When the ruler of the feast tasted the water now become wine, and didn't know where it came from (but the servants who had drawn the water knew), the ruler of the feast called the bridegroom,

2:10 言った、「どんな人でも、初めによいぶどう酒を出して、酔いがまわったところにわるいを出すものだ。それなのに、あなたはよいぶどう酒を今までとっておかれました」。

2:10 and said to him, "Everyone serves the good wine first, and when the guests have drunk freely, then that which is worse. You have kept the good wine until now!"

2:11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた。

2:11 This beginning of his signs Jesus did in Cana of Galilee, and revealed his glory; and his disciples believed in him.

4. カペルナウムを訪れた

ヨハネによる福音書

2:12 そののち、イエスは、その母、兄弟たち、弟子たちと一緒に、カペナウムに下って、幾日かそこにとどまられた。

2:12 After this, he went down to Capernaum, he, and his mother, his brothers, and his disciples; and they stayed there a few days.

5. 30年の過ぎ越し（神殿で暴れて神殿を清める）

ヨハネによる福音書

2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭が近づいたので、イエスはエルサレムに上られた。

2:13 The Passover of the Jews was at hand, and Jesus went up to Jerusalem.

2:14 そして牛、羊、はとを売る者や両替する者などが宮の庭にすわり込んでいるのをごらんになって、

2:14 He found in the temple those who sold oxen, sheep, and doves, and the changers of money sitting.

2:15 なわでむちを造り、羊も牛もみな宮から追いだし、両替人の金を散らし、その台をひっくりかえし、

2:15 He made a whip of cords, and threw all out of the temple, both the sheep and the oxen; and he poured out the changers' money, and overthrew their tables.

2:16 はとを売る人々には「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われた。

2:16 To those who sold the doves, he said, "Take these things out of here! Don't make my Father's house a marketplace!"

2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」と書いてあることを思い出した。

2:17 His disciples remembered that it was written, "Zeal for your house will eat me up." {Psalm 69:9}

2:18 そこで、ユダヤ人はイエスに言った、「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」。

2:18 The Jews therefore answered him, "What sign do you show us, seeing that you do these things?"

2:19 イエスは彼らに答えて言われた、「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」。

2:19 Jesus answered them, "Destroy this temple, and in three days I will raise it up."

2:20 そこで、ユダヤ人たちは言った、「この神殿を建てるのには、四十六年もかかっています。それなのに、あなたは三日のうちに、それを建てるのですか」。

2:20 The Jews therefore said, "It took forty-six years to build this temple! Will you raise it up in three days?"

2:21 イエスは自分のからだである神殿のことを言われたのである。

2:21 But he spoke of the temple of his body.

2:22 それで、イエスが死人の中からよみがえったとき、弟子たちはイエスがこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉とを信じた。

2:22 When therefore he was raised from the dead, his disciples remembered that he said this, and they believed the Scripture, and the word which Jesus had said.

2:23 過越の祭の間、イエスがエルサレムに滞在しておられたとき、多くの人々は、その行われたしるしを見て、イエスの名を信じた。

2:23 Now when he was in Jerusalem at the Passover, during the feast, many believed in his name, observing his signs which he did.

2:24 しかしイエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった。それは、すべての人を知っておられ、

2:24 But Jesus didn't trust himself to them, because he knew everyone,

2:25 また人についてあかしする者を、必要とされなかったからである。それは、ご自身人の心の中にあることを知っておられたからである。

2:25 and because he didn't need for anyone to testify concerning man; for he himself knew what was in man.

このとき暴れた様子は、天上界で暴れた日本のスサノオという神の話との共通点に気づかないとイエス＝スサノオだったということに気づけない。

6. ニコデモとの出会いと交流

ヨハネによる福音書

3:1 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。

3:1 Now there was a man of the Pharisees named Nicodemus, a ruler of the Jews.

3:2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒にないなら、あなたがなさっておられるようなしるしは、だれにもできはしません」。

3:2 The same came to him by night, and said to him, "Rabbi, we know that you are a teacher come from God, for no one can do these signs that you do, unless God is with him."

3:3 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

3:3 Jesus answered him, "Most certainly, I tell you, unless one is born anew, {The word translated "anew" here and in John 3:7 (anothen) also means "again" and "from above".} he can't see the Kingdom of God."

3:4 ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができますようか」。

3:4 Nicodemus said to him, "How can a man be born when he is old? Can he enter a second time into his mother's womb, and be born?"

3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。

3:5 Jesus answered, "Most certainly I tell you, unless one is born of water and spirit, he can't enter into the Kingdom of God!

3:6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。

3:6 That which is born of the flesh is flesh. That which is born of the Spirit is spirit.

3:7 あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

3:7 Don't marvel that I said to you, 'You must be born anew.'

この人は高潔で立派な人間だった。

また後で活躍するが、俺の反対派であったものの俺の弟子になった人だった。

7. ユダヤの田舎での洗礼

ヨハネによる福音書

3:22 こののち、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らと一緒にそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。

3:22 After these things, Jesus came with his disciples into the land of Judea. He stayed there with them, and baptized.

ここではユダヤの田舎で洗礼を授けていた。

8. アイノンでの洗礼者ヨハネの証言

ヨハネによる福音書

3:23 ヨハネもサリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである。人々がぞくぞくとやってきてバプテスマを受けていた。

3:23 John also was baptizing in Enon near Salim, because there was much water there. They came, and were baptized.

3:24 そのとき、ヨハネはまだ獄に入れられてはいなかった。

3:24 For John was not yet thrown into prison.

3:26 そこで彼らはヨハネのところにきて言った、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」。

3:26 They came to John, and said to him, "Rabbi, he who was with you beyond the Jordan, to

whom you have testified, behold, the same baptizes, and everyone is coming to him."

3:27 ヨハネは答えて言った、「人は天から与えられなければ、何ものも受けることはできない。

3:27 John answered, "A man can receive nothing, unless it has been given him from heaven.

3:28 『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である』と言ったことをあかししてくれるのは、あなたがた自身である。

3:28 You yourselves testify that I said, 'I am not the Christ,' but, 'I have been sent before him.'

3:29 花嫁をもつ者は花婿である。花婿の友人は立って彼の声を聞き、その声を聞いて大いに喜ぶ。こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。

3:29 He who has the bride is the bridegroom; but the friend of the bridegroom, who stands and hears him, rejoices greatly because of the bridegroom's voice. This, my joy, therefore is made full.

3:30 彼は必ず栄え、わたしは衰える。

3:30 He must increase, but I must decrease.

3:31 上から来る者は、すべてのものの上にある。地から出る者は、地に属する者であって、地のことを語る。天から来る者は、すべてのものの上にある。

3:31 He who comes from above is above all. He who is from the earth belongs to the earth, and speaks of the earth. He who comes from heaven is above all.

3:32 彼はその見たところ、聞いたところをあかししているが、だれもそのあかしを受けられない。

3:32 What he has seen and heard, of that he testifies; and no one receives his witness.

3:33 しかし、そのあかしを受けいれる者は、神がまことであることを、たしかに認めたのである。

3:33 He who has received his witness has set his seal to this, that God is true.

3:34 神がおつかわしになったかたは、神の言葉を語る。神は聖霊を限りなく賜うからである。

3:34 For he whom God has sent speaks the words of God; for God gives the Spirit without measure.

3:35 父は御子を愛して、万物をその手にお与えになった。

3:35 The Father loves the Son, and has given all things into his hand.

3:36 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」。

3:36 One who believes in the Son has eternal life, but one who disobeys {The same word can be translated "disobeys" or "disbelieves" in this context.} the Son won't see life, but the wrath of God remains on him."

つまり、俺も洗礼を与えていたから、洗礼者ヨハネの元にいた人間がヨハネにそれを訴えた。しかし、洗礼者ヨハネは、嫉妬した訳ではなく、俺よりも「洗礼者ヨハネの方が下だから」と言う証言をした。

9. 洗礼者ヨハネがとらえられ牢獄に入れられる

このイベントは、共観福音書に書いてある共通のイベントだ。

この共観福音書のネタばらしをすると時空間をつなげて色々な世界でキリストを務めた俺のことを知っている弟子を別の世界の弟子と入れ替えて色々な世界で起こった俺にまつわる話を書かせたために、俺のエピソードは盛り沢山集まるのだが、人間の体験から発生する認識では、次元転送（時空間の移動）はできないので、矛盾を感じているものだが、ことわっておくことは、イエスは神そのものであり、神の自叙伝は奇跡に満ちている。

細かな出来事の違いは、記憶違いや出力違いではなく、次元転送を示していて、イエスの存在そのものが奇跡だったと福音書であかされているのだ。

そのような共観福音書は、世において至高の領域に近い特別な書物だが、それらの共観福音書にヨハネの投獄が共通して書かれていることは、それほど大きな内容だったという意味である。

マタイ

4:12 さて、イエスはヨハネが捕らえられたことを聞くとガリラヤに去っていった+。

14:3 ヘロデはかつて自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえ、縛って牢屋に入れていた。

14:4 ヨハネがヘロデに「彼女を自分のものとするのは正しくありません」と言っていたからである。

14:5 ヘロデはヨハネを殺したいと思ったが群衆を恐れた。人々がヨハネを預言者と見なしていたからだった。

マルコ

6:17 ヘロデはかつて自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアとのことでヨハネを捕らえさせ縛って牢屋に入れていた。なぜならヘロデはヘロディアと結婚していて

6:18 ヨハネがヘロデに「兄弟の妻を自分のものとするのは正しくありません」と言っていたからである。

6:19 それでヘロディアは恨みを抱き殺したいと思ったができなかった。

6:20 ヘロデがヨハネは正しい聖なる人だと知っていてヨハネを恐れ保護しておいたからである。ヘロデはヨハネが話すことを聞いてどうしたらいいかと当惑しながらも喜んで話を聞いていた。

このようなことで殺される世情だったというのは、現在でもアフリカなどでは人権の意識が希薄なのだが、

殺すために捕まえた天使であったものの喜んで話を聞いていたというのは、洗礼者ヨハネが立派だったということだし、ヘロデが真理の話に耳を傾けることはヘロデ自身も見所があることを示している。

ルカ

15 さて民は期待を抱いていて皆がヨハネについて「もしかしたら彼がキリストではないか」と心の中で考えていた。

16 それでヨハネは皆にこう言った。「私は水でバプテスマを施します。しかし私より強い方が来ます。私はその方のサンダルのひもをほどくにも値しません。その方は聖なる力と火でバプテスマを施します。

17 その方は農作業に使うシャベルを手にしています。脱穀場をすっかりきれいにし小麦を倉の中に集めるためです。しかしもみ殻は消えない火で焼き払います」。

18 ヨハネはほかにも多くのことを説き勧め引き続き民に良い知らせを告げた。

19 しかし地域支配者のヘロデは自分の兄弟の妻ヘロデアに関しまた自分がした全ての悪事に関してヨハネに戒められたため

20 もう1つ悪事を行った。ヨハネを牢屋に閉じ込めたのである。

10. サマリアの女に見せた奇跡と水の話

ヨハネによる福音書

4:4 しかし、イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。

4:4 He needed to pass through Samaria.

4:5 そこで、イエスはサマリヤのスカルという町においでになった。この町は、ヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにあったが、

4:5 So he came to a city of Samaria, called Sychar, near the parcel of ground that Jacob gave to his son, Joseph.

4:6 そこにヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れを覚えて、そのまま、この井戸のそばにすわっておられた。時は昼の十二時ごろであった。

4:6 Jacob's well was there. Jesus therefore, being tired from his journey, sat down by the well. It was about the sixth hour {noon}.

4:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみにきたので、イエスはこの女に、「水を飲ませて下さい」と言われた。

4:7 A woman of Samaria came to draw water. Jesus said to her, "Give me a drink."

4:8 弟子たちは食物を買いに町に行っていたのである。

4:8 For his disciples had gone away into the city to buy food.

4:9 すると、サマリヤの女はイエスに言った、「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ませてくれとおっしゃるのですか」。これは、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかったからである。

4:9 The Samaritan woman therefore said to him, "How is it that you, being a Jew, ask for a drink from me, a Samaritan woman?" (For Jews have no dealings with Samaritans.)

4:10 イエスは答えて言われた、「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう」。

4:10 Jesus answered her, "If you knew the gift of God, and who it is who says to you, 'Give me a drink,' you would have asked him, and he would have given you living water."

4:11 女はイエスに言った、「主よ、あなたは、くむ物をお持ちにならず、その上、井戸は深いのです。その生ける水を、どこから手に入れるのですか」。

4:11 The woman said to him, "Sir, you have nothing to draw with, and the well is deep. From where then have you that living water?"

4:12 あなたは、この井戸を下さったわたしたちの父ヤコブよりも、偉いかたなのですか。ヤコブ自身も飲み、その子らも、その家畜も、この井戸から飲んだのですが」。

4:12 Are you greater than our father, Jacob, who gave us the well, and drank of it himself, as did his children, and his livestock?"

4:13 イエスは女に答えて言われた、「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう」。

4:13 Jesus answered her, "Everyone who drinks of this water will thirst again,

4:14 しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

4:14 but whoever drinks of the water that I will give him will never thirst again; but the water that I will give him will become in him a well of water springing up to eternal life."

4:15 女はイエスに言った、「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」。

4:15 The woman said to him, "Sir, give me this water, so that I don't get thirsty, neither come all the way here to draw."

4:16 イエスは女に言われた、「あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい」。

4:16 Jesus said to her, "Go, call your husband, and come here."

4:17 女は答えて言った、「わたしには夫はありません」。イエスは女に言われた、「夫がないと言ったのは、もっともだ」。

4:17 The woman answered, "I have no husband." Jesus said to her, "You said well, 'I have no husband,'

4:18 あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」。

4:18 for you have had five husbands; and he whom you now have is not your husband. This you have said truly."

4:19 女はイエスに言った、「主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。

4:19 The woman said to him, "Sir, I perceive that you are a prophet.

4:20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝をしたのですが、あなたがたは礼拝すべき場所は、エルサレムにあると言っています」。

4:20 Our fathers worshiped in this mountain, and you Jews say that in Jerusalem is the place where people ought to worship."

4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:21 Jesus said to her, "Woman, believe me, the hour comes, when neither in this mountain, nor in Jerusalem, will you worship the Father.

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:22 You worship that which you don't know. We worship that which we know; for salvation is from the Jews.

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:23 But the hour comes, and now is, when the true worshippers will worship the Father in spirit and truth, for the Father seeks such to be his worshippers.

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

4:24 God is spirit, and those who worship him must worship in spirit and truth."

4:25 女はイエスに言った、「わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」。

4:25 The woman said to him, "I know that Messiah comes," (he who is called Christ). "When he has come, he will declare to us all things."

4:26 イエスは女に言われた、「あなたと話をしているこのわたしが、それである」。

4:26 Jesus said to her, "I am he, the one who speaks to you."

4:27 そのとき、弟子たちが帰って来て、イエスがひとりの女と話しておられるのを見て不思議に思ったが、しかし、「何を求めておられますか」とも、「何を彼女と話しておられるのですか」とも、尋ねる者はひとりもなかった。

4:27 At this, his disciples came. They marveled that he was speaking with a woman; yet no one said, "What are you looking for?" or, "Why do you speak with her?"

4:28 この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、
4:28 So the woman left her water pot, and went away into the city, and said to the people,
4:29 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい。
もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。
4:29 "Come, see a man who told me everything that I did. Can this be the Christ?"
4:30 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。
4:30 They went out of the city, and were coming to him.
4:31 その間に弟子たちはイエスに、「先生、召しあがってください」とすすめた。
4:31 In the meanwhile, the disciples urged him, saying, "Rabbi, eat."
4:32 ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。
4:32 But he said to them, "I have food to eat that you don't know about."
4:33 そこで、弟子たちが互に言った、「だれかが、何か食べるものを持ってきてさしあげた
のであろうか」。
4:33 The disciples therefore said one to another, "Has anyone brought him something to eat?"
4:34 イエスは彼らに言われた、「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみ
ところを行い、そのみわぎをなし遂げることである。
4:34 Jesus said to them, "My food is to do the will of him who sent me, and to accomplish his
work.
4:35 あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。
しかし、わたしはあなたがたに言う。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待つ
ている。
4:35 Don't you say, 'There are yet four months until the harvest?' Behold, I tell you, lift up
your eyes, and look at the fields, that they are white for harvest already.
4:36 刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共に
喜ぶためである。
4:36 He who reaps receives wages, and gathers fruit to eternal life; that both he who sows and
he who reaps may rejoice together.
4:37 そこで、『ひとりがまき、ひとりが刈る』ということわが、ほんとうのこととなる。
4:37 For in this the saying is true, 'One sows, and another reaps.'
4:38 わたしは、あなたがたをつかわして、あなたがたがそのために労苦しなかったものを
刈りとらせた。ほかの人々が労苦し、あなたがたは、彼らの労苦の実にあずかっているの
である」。
4:38 I sent you to reap that for which you haven't labored. Others have labored, and you have
entered into their labor."
4:39 さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも
言いあてた」とあかしした女の言葉によって、イエスを信じた。

4:39 From that city many of the Samaritans believed in him because of the word of the woman, who testified, "He told me everything that I did."

4:40 そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつか滞在された。

4:40 So when the Samaritans came to him, they begged him to stay with them. He stayed there two days.

4:41 そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

4:41 Many more believed because of his word.

4:42 彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。

4:42 They said to the woman, "Now we believe, not because of your speaking; for we have heard for ourselves, and know that this is indeed the Christ, the Savior of the world."

4:43 ふつかの後に、イエスはここを去ってガリラヤへ行かれた。

4:43 After the two days he went out from there and went into Galilee.

このときの話は、2枚目の地図の「ヤコブの井戸」を通っていたときの話だ。

前に、エルサレムで神殿を清めた話をしたが、そのエルサレムからガリラヤに向かう方向で、その途中で通った所で起きた話だ。

何を話していたのかというと主に水を提供した人間は、主から水を提供されるのだ。

人間が主に提供する水は、「愛」のことである。

この愛がない砂漠で、トレーニングをしていたのだが、俺は試練が終われば愛をもらうことができる。

女の愛とは、「男が他にいないか」とささやかに訴えているように、下から出る水の暗喩でもあった。

かといって、この当時に女と交わる訳にはいかないから、この話（マタイ25：1－13）をするために、当時、こういう話を作っておいた。

世の中の法則には必ず報いがあるのだが、この報いとして、神から水をもらえる。

この水は「永遠の命」である。

つまり、「愛こそが永遠の命を神から授かる秘法」だったのだ。

俺は、それを伝えに来た神なのだ。

これを今この話で教える。

この段階は、西暦では30年くらいの話になる。

1 1. ガリラヤで「天の国は近づいた」と発言する

福音書というものは、1つの巻においては話の筋が整理されているものの、2つ以上をあわせて読むと違う世界のイエス・キリストの歴史を結合させることになるので、どの段階でどのイベントが起きたかは、その福音書それぞれの出来事になる。

よって、時間の前後が、どちらの福音書の記載が正しいのかという疑問が起きるだろうが、どちらも正しい。

福音書は、今までの人間の読み物の読み方をしているものではなく、新しい読み方が必要になる。

それは、「どちらも起きている」という多元宇宙論の前提を知らなければ、この世界の真実にはたどりつけないのである。

神は全能ゆえ、そのあり余る能力と時間によって、無数の世界をつくって同時並行で結合させた1つの世界が共観福音書が存在する世界になる。

その前提を知ったうえで、ここから読まなければ頭がおかしくなってしまう。

よって、出来事はどうでもいい。イエスが教えた教えの内容が大切である。

マタイによる福音書

4:12 さて、イエスはヨハネが捕らえられたことを聞くと、ガリラヤに去っていった。

4:13 さらに、ナザレを去ってから、ゼブルンとナフタリの地域にある湖のほとりのカペルナウムに来て住んだ+。 4:14 預言者イザヤを通して次のように語られたことが実現するためである。

4:15 「ゼブルンの土地とナフタリの土地、海の道路沿い、ヨルダン川の向こう側、異国の人々のガリラヤよ！

4:16 闇にいる民は大きな光を見、死の陰に覆われた地方にいる人たちの上に光+が昇った」。

4:17 その時から、イエスは伝道を開始して、「悔い改めなさい。天の王国は近づいたからです」と言い始めた。

4:18 イエスがガリラヤ湖の岸辺を歩いていると、2人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが湖に網を投げていた。2人は漁師だった。

4:19 イエスは言った。「私に付いてきなさい。魚ではなく人を集める漁師にしてあげましょう」。 20 2人は直ちに網を捨てて後に従った。

4:21 イエスはそこから歩いていき、別の2人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネを目にした。2人は父親のゼベダイと舟にいて、網の手入れをしていた。イエスが呼ぶと、22 2人は直ちに舟と父親を残して後に従った。

4:23 イエスはガリラヤ中を巡り、会堂で教え、王国の良い知らせを伝え、民のあらゆる病気や不調を治した。

4:24 イエスの評判はシリア中に広まり、さまざまな病気や苦痛を抱える人全て、邪悪な天使に取りつかれた人や、てんかんがある人、体がまひした人などがイエスの所に連れてこられ、イエスはその人たちを治した。

4:25 その結果、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、またヨルダン川の向こう側から、大勢の人が来てイエスの後に従った。

マルコによる福音書

1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の良い知らせを伝えて、

1:15 こう言った。「定められた時が来て、神の王国は近づきました。悔い改めて、良い知らせに信仰を持ちなさい」。

1:16 イエスがガリラヤ湖の岸辺を歩いていると、シモンとその兄弟アンデレが湖に網を投げていた。2人は漁師だった。

1:17 イエスは言った。「私に付いてきなさい。魚ではなく人を釣る漁師にしましょう」。

1:18 2人は直ちに網を捨てて後に従った。

1:19 イエスは少し歩いていき、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが舟の中で網の手入れをしているのを目にして、

1:20 すぐに2人を呼んだ。2人は、父親のゼベダイと雇われ人たちを舟に残してイエスの後に付いていった。

1:21 一行はカペルナウムに入った。

ここでいう神の国や天の国が近づいたとは、どういう意味かというと

俺以外説明できる者はいない内容だが

神の国や天の国＝「永遠の命」を得ることと同義である。

先ほどのサマリアの女の水の話をしてからこの話になっているのは

俺が目の前にいる間はチャンスなのだ。俺に全力で尽くせば、天の国に入る審査に合格できる。

そういう教えがマタイ24章や25章など色々な所で書かれている。

つまり、キリストが来臨、再臨している間は、そのチャンスなのだと書かれている。

逆に帰った後は、天の国に行く方法は、俺が残していったテキストしかない訳だから、俺が残させた弟子の福音書も含めて、テキスト（聖書）をよく読んで、実践していかなければ、天の国に近づいて入ることはできないのである。

この言葉は、そういう意味である。

キリストの受肉体が去ったとしても、キリストの口から出たものがパンであるからそれを食べて育って、血を流して契約をすれば（ぶどう酒のたとえ）、福音の効果は発生して、血肉においてキリストと共にいることになるから、天に運ばれるのである。

決してキリストが地上にいる間だけ尽くせばよいというものではないし、逆に地上を去っていてもキリストの法に従って生きていくことが神に尽くすということになるので、天の国に入って永遠の命を得ることができる。

12. 70人の弟子の派遣

こういう話なので、ここまで西暦30年の過越祭、西暦30年の出来事まで書いたが、同じように31年の過越祭

32年の過越祭、

32年の幕屋の祭りの頃は、70人を派遣した（ルカ 10:1-24）。

ルカによる福音書

10:1 これらのことの後、主イエスはほかの70人を指名し、行こうとしている全ての町と場所へ、先に2人ずつ遣わした。

10:2 その際、こう言った。「収穫は多いですが、働き手は少ないのです。それで、収穫のために人を遣わしてくださるよう、収穫の主人にお願いしなさい。

10:3 行きなさい。私はあなたたちを遣わします。あなたたちはオオカミの間にいる子羊のようになります。

10:4 財布も食物袋もサンダルも持って行ってはなりません。また道中、誰にもあいさつをしてはなりません。

10:5 どこでも家に入ったなら、まず、『この家に平和がありますように』と言いなさい。

10:6 平和を望む人がそこにいるなら、あなたたちが願う平和はその人のもとにとどまります。しかし、いないなら、それはあなたたちに戻ってきます。

10:7 その家に滞在し、提供される物を食べたり飲んだりしなさい。働く人は報酬を受けるに値します。家から家へと移って行ってはなりません。

10:8 また、どこでも町に入って人々が迎えてくれる所では、出される物を食べ、

10:9 そこにいる病気の人たちを治し、『神の王国はあなた方の近くにきました』と告げなさい。

10:10 しかし、どこでも町に入って人々が迎えてくれない所では、その大通りに出て、こう言いなさい。

10:11 『この町で足に付いた土さえも、あなた方に向かって払い落とします。それでも、神の王国が近くにきたことを知っておきなさい』。

10:12 あなたたちに言いますが、その日には、その町よりソドムの方が処罰が軽いでしょう。

10:13 コラジンよ、あなたには災いがあります！ ベツサイダよ、あなたには災いがあります！ あなた方の中でなされた強力な行いがティルスやシドンでなされていたなら、そこの人々は粗布をまとめて灰の中に座り、とっくに悔い改めていたでしょう。

10:14 実際、裁きの際には、あなた方よりティルスやシドンの方が処罰が軽いでしょう。

10:15 カペルナウムよ、あなたが天に上げられるようなことがあるでしょうか。あなたは墓に下るのです！

10:16 あなたたちの言葉を聞く人は私の言葉も聞きます。あなたたちを無視する人は私をも無視します。さらに、私を無視する人は私を遣わした方をも無視します」。

10:17 70 人が喜びながら帰ってきて、言った。「主よ、あなたの名を使うと、邪悪な天使も服従するのです」。

10:18 イエスは言った。「サタンがすでに稲妻のように天から落ちたのが見えます。

10:19 私はあなたたちに、蛇やサソリを踏みつけ、敵の全ての力を制する権威を与えました。それで、あなたたちに害を加えるものは何もありません。

10:20 とはいえ、邪悪な天使が服従することを喜ぶのではなく、あなたたちの名前が天に記されたことを喜びなさい」。

10:21 まさにこの時、イエスは聖なる力により喜びにあふれて言った。「天地の主である父よ、あなたを大いに賛美します。あなたはこのようなことを賢い知識人たちから注意深く隠し、幼い子供たちに啓示されたからです。そうです、父よ、これはあなたのお考えに沿ったことです。

10:22 全てのものは父によって私に渡されています。子がどのような者かを知っているのは父だけであり、父がどのような方かを知っているのは、子と、子が進んで父を啓示する者たちだけです」。

このように多くの使者を派遣し、俺の名において奇跡を代行させた。

悪魔は出ていき、人々は清められた。

弟子達は喜び帰ってきた。

ヤーウェという神は、不信仰者には対応は理不尽だから、不信仰者向けに神の思いを正直に吐露した内容の発言をしている。

あとは、いついつに何々をしたという内容は本当に関係がないから、そういう内容に注目しないように。

大切なことは、永遠の命を与えるということであり、その証明としてラザロをわざと4日も置いてから生き返らせたり（当時、魂は3日して天に運ばれると考えられていたから、4日目に生き返るなら神のわざだという証明と考えられていた）、3日目に自分が生き返ることで、それができることを証明した。

13. ラザロの復活、磔刑～復活、昇天まで

32年の献納の後にベタニヤでラザロを4日目に生き返らせたのだが
それを聞いた当時の大祭司カイヤファは、俺を殺そうと人々を扇動した。
このままでは俺のためにローマがユダヤに攻めて来て神殿も壊して何もかも奪い去ってしま
うから
イエスは皆のために一人が犠牲になって死ぬことを預言したから
皆が俺を殺そうという流れになった。
そこで、俺は、町を出て、荒野に近いエフライムという町に退避した。この内容はヨハネ
11:47-54 に書かれている。
そこから33年のニサン8日に、過ぎ越しの6日前にベタニヤに到着した。

33年のニサン9日にベタニヤでマリアが頭と足に香油を注いだ。
それから同じ日にロバに乗ってエルサレムに入った。

俺がアメーバをしていたのは、
アメーバのマスコットキャラが



これはロバ



これが分かるのは預言の通り天の父だけになる（マタイ 24:36、マルコ 13:32）。
模様が同じことに注目するように。

マタイによる福音書

24:36 その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

マルコによる福音書

13:32 その日、その時は、だれも知らない。天にいる御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。

13:33 気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである。

つまり、俺が神ヤーウェだとあかしているのだ。

聖書とは、俺についての預言を記した書物なので、俺についての預言は、ことごとく成就する。

俺の意味合いは、聖書の他の個所の文言とは全然違うから、聖書の嘘の記載とは違って、俺の内容は当たるから、そこを判断して神を知り神を信じなければならない。

33年の二サン10日ではイチジクの木に災いを宣告した。

エルサレムでは、祭司長と律法学者たちが俺を殺そうとたくらんだ。

俺は、自分の死を予告した。

33年の二サン11日ではエルサレム神殿でやもめの寄付を称賛した。

この日、オリーブ山に行って、将来の再臨のしるし（今）を教えた（マタイ 24:1-51、マルコ 13:1-37、ルカ 21:5-38）。

その後、25:1-46にある「10人の乙女の例え、タラントの例え、羊とヤギの例え」を教えたが、これはもうたとえではない。数字だけがたとえであって、ほぼこの通りの内容になっている。

なぜ5人・5人でわけたかという、右の手の数と左の手の数にしておいたのだ。

つまり、このときは、天国行きの選民と地獄行きの悪人を、左と右にわけのだから（マタイ 25:33 羊を右に、やぎを左におく）、右手の数で5本（5人）、左手の数で5本（5人）というたとえで作った話なのだ。

俺はノアの方舟のように数えられるくらいの少数の女でいいから、再臨したら花嫁で出迎えろとここで命じていたのだ。

それは、『大天使ミカエルインカーネーション』の大変辛い試練が終わった後だから、「カナの婚礼」みたいに祝われないといけない段階になっているからだ。

神が神の国に帰るのに、地上で出迎えとその祝福がなく、美しい花（＝花嫁）で飾られないというのは、地獄行きを決める要素になっている。

ここでは、油の入れ物とか壺とか言われるのは花嫁の持つ名器の話のアラーナりのたとえだし、花嫁が持つ油とは愛液だし、舞台も夜だし、宴のために家の中に夫婦が入ったら昔からやることはそうなので、そういう美しい花での愛の出迎えを神ヤーウェは求めているということを書いておく。

なぜなら、神ヤーウェだからである。

もともとエデンの園には、裸の男女が通常として置かれていた。

それが許可なく性交してはいけない理由から、許可なく性交する男女は地上に追放されたため、その子が子をうんで、神を無視した自由なふるまいをよしとしているのが人間であるし、この先が減ぶということをキリストは伝えに来たのだ。

33年の二サン12日、エルサレムでユダヤ人の指導者たちが俺を殺そうと企んだ。

そして、イスカリオテのユダが、裏切りを画策した。

33年の二サン13日、エルサレムで最後の過越祭の準備をしていた。

33年の二サン14日、エルサレムで弟子達と過越祭の食事をした。

この時に子羊を食べていたかもしれない。創造主だし、主（しゅ）なのだから、それくらいはいいのだ。

俺は神なのに、俺が食べたならダメだと言っている人間は誰だ。そいつは肉を食べたことが生

涯において一度もないのか。それとも神なのか。どの立場から言っているのだ。

イエスなら、こう言う。「私が来たことが、この祭りである。私をもてなす祭りのだから、そこで出されたものを私が食べることは、よいことなのだ。なぜ、それを止めるのか。あなた方は、過越祭でこれを食べないのか？あなた方は食べているのに、それを神に食べるなどというなら、あなた方は主を祭っていない。その報いは、あなた方が主からもてなされない（地獄に行く）ことである。」

地獄とは、ゲヘナといわれているが、炎の煉獄が象徴的だが、それ以外の地獄も途中に用意されている。

33年のニサン14日のその後は、弟子達の足を洗った。

その直後、イスカリオテのユダが裏切ることを予言し、イスカリオテのユダを去らせた。

その後、ペテロの否認と使徒たちが散り散りになることを予言した。

ここからはヨハネによる福音書にしか書いていないが、

ヨハネによる福音書 14:1-17:26 で

次に来る援助者（つまり、俺）について約束した。

また、真のブドウの木の例えもした。

愛するようにと命じた。

使徒たちとの最後の祈りをした。

この後、ゲッセマネに行って、庭園での苦悩し、俺はイスカリオテのユダから裏切られ、とらえられた。

この後、エルサレムでアンナス（大祭司カイヤファの舅）に質問された。

カヤファとサンヘドリンによる裁判があった。

周りをちょろちょろして俺の様子をうかがっていたペテロは、俺との関係を否定した。

この後、裏切ったイスカリオテのユダは首をつって自殺した。

この後、ピラトの前に立ち、ヘロデの所に移送されたが、またピラトの所に移送された。

このとき、過越祭のときは罪人を釈放することになっていたが、俺は釈放されずに、俺と同じ名前だった殺人罪の囚人バラバ・イエスが釈放された。俺を釈放するのではなく、同じ名前の殺人罪の囚人を釈放しろと民衆は答えた。バラバが何罪を犯したかは福音書によって違いがあるが、基本的な路線ではバラバは殺人罪を犯したことで世界は設計されている。ヨハネによる福音書では強盗と書いてある。

ヨハネによる福音書

18:40 すると彼らは、また叫んで「その人ではなく、バラバを」と言った。このバラバは強盗であった。

18:40 Then they all shouted again, saying, "Not this man, but Barabbas!" Now Barabbas was a robber.

ギリシア語の聖書で「Βαρ α β β α ρ α ς」と書いてある。

マタイによる福音書では「悪名高い」囚人だと書かれている。

マタイによる福音書では、群衆が「彼（イエス・キリスト）の血は我々と我々の子孫の上にかかってもよい」と言っていた。

今日まで、ナチスのホロコーストにあったり、パレスチナから攻撃をされて戦争になって、人質を連れ去られて死んでいることまで、このゆえあつてのことである。

つまり、イスラエルは永遠に呪われているので、俺はイスラエルにはもう降りないと決めていた。

32年の二サン14日の金曜日の午後3時頃、ゴルゴタで苦しみの杭によって死んだ。

磔刑とは手首と足に杭で穴をあけられて十字架にはりつけにされる刑である。

動脈が切断されれば失血死で死ぬのだが、そんなにすぐに死ぬ刑ではなく、3日間そのままさらして、時間をかけてあぶりながら殺していくという刑だった。

穴をあけられるくらいでは何も痛くないし、正中神経が切断したら痛いのではないかと言われるが、俺は奇跡を起こせる神だから、何も痛くないし、そんなくらいは慣れているから、素でも普通に生きていた。

磔にされたくらいだったら呼吸はできるし、そんなにやわな生き方はしていない。戦神の大天使ミカエルだからだ。

ただし、普通の戦闘ど素人の人間にとっては、傷口だけで体重を支えることになるから激痛に耐えて、飢えや脱水にも耐えないといけないことになるから、致命傷がない場合は死ぬのに時間がかかっていた。

ユダヤ人の指導者達は、死刑にする権限が無かった。ユダヤでは死刑が禁止されていた。

そこで、祭司たちは、祭司たちであつたにも関わらず、当時、ユダヤを支配していた侵略国ローマ帝国に対して、俺を反逆者だと言って渡した。

このローマ帝国が、当時処刑方法として磔刑を採用していたから、そうだった。

俺は、愛を説いて治癒能力を使っていっただけで、天の国なんて心の中にある国だと説明していたし、武力も準備はしていなかったし、その罪に関して何もしていないが、この重い刑

罰（残虐な公開処刑）を適用された。

民衆の喝さいがあれば、過越祭だったので釈放されたのだが、民衆は俺を「殺せ！」と大声で叫んでいた。

これで俺はユダヤは終わりだと思った。今後イスラエルに対して、何ら思いやることは無くなったためである。

俺にとっては、普通の出来事だったし、槍で刺されようが何ともなかったが、定めではここで死ぬということになっていたから、俺は死んだふりをして、映像をすりかえておいた。つまり、俺は死んでいなかったが、死んだ肉体とすりかえることによって、この難を逃れていた。

俺は、ずっと意識があったし、途中から天上界にいた。

だから、聴衆から「救世主なら、自分自身を救えないのか！」という暴言を吐かれていたが、既に自分で救っていた。

しかし、預言も同時に成就しないといけなかったから、阿呆のコメントには反論せずに死んだふりを貫いていた。

槍で刺されたときも意識はあったが何も痛くなかった。
それが神の奇跡なのだ。

刑吏が足の骨を折っていくのは、足で体重を支えられなくなるためである。
そうすると腕だけで体重を支えなければならなくなり、肺を動かしている呼吸筋の機能をさせづらくしたいと狙ったものだった。つまり、早く窒息をさせることを狙っているのである。

俺は早く息が止まっていたから、足の骨を折られなかった。

これは、今回の『大天使ミカエルインカーネーション』にも影響していて、俺が投獄されたとき、俺が危険だからという理由で、警報を鳴らされて、暴動を鎮圧する専門の刑務官たちが取っ組み合いをしかけてきたときに、刑務官たちが「足の骨折る？」「足の骨折る？」と言いつついたが、俺は、奇跡を起こして戦う強者だったため、足の骨はおられなかった。

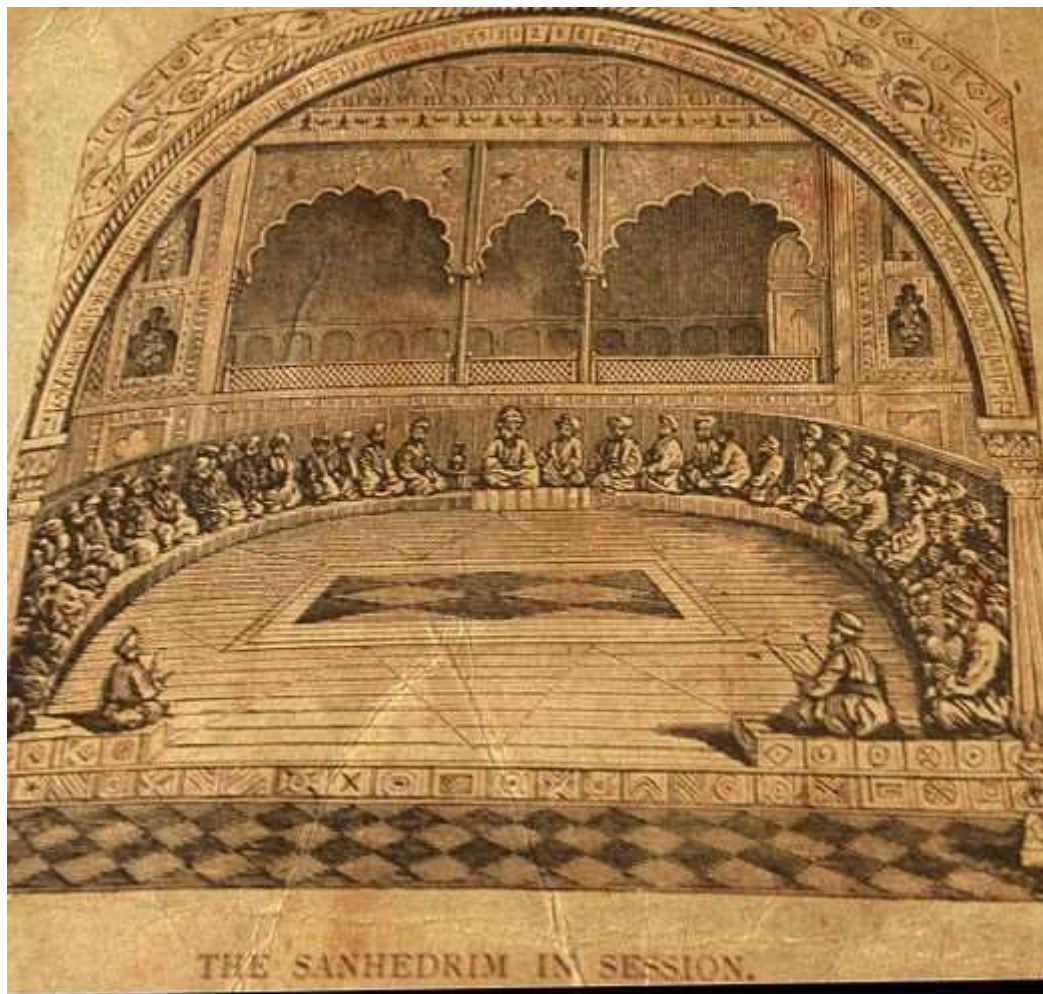
俺は一人で、大勢の刑務官のラグビーのような取っ組み合いに勝っていった。
この足の骨を折る話をされたり、結局、足の骨を折られなかった話は、俺自身にイエス・キリストであったというあかしがされていたのだ。

この日の内に、十字架からおろされて、サンヘドリン（最高法廷/最高法院）の議員だったアリマタヤのヨセフやニコデモとかが来て墓に埋葬したいとピラトに言ってきた。
ピラトが許可したため、俺はおろされて、きれいな上等の亜麻布で包まれて、ヨセフの持っていた新しい墓に入れられた。その墓は岩をくりぬいて作られた墓だった。

サンヘドリンとは、イスラエルにおいて法律の問題を解決するために 71 人の長老たち（一人が議長、一人が副議長、69 人が議員）から構成される最高裁判権を持った組織（最高裁判所）だった。

どういう問題でも議論できるように、天体や医学の知識まで備えて何の話でもできる賢明な人間で、律法の知識に優れた思慮深い人が任命されていたから、ニコデモに「あなたは最高法院の議員なのに、こんなことも知らないのか」と叱責していたのは、それだけ地位が高い最高の宗教や政治の指導的機関だったためである。

偽預言者の類の深刻な人事事件の場合はサンヘドリンで議論していた。



ここまでの32年の二サシ14日金曜日の出来事である。

二サシ15日では、墓は封じられて、祭司とパリサイ派の人たちが警備させていた。

二サシ16日（3日目）に、俺は復活した。

このときのことは、どの福音書にも書かれている大きなイベントだった。

マタイ 28:1-15

マルコ 16:1-8

ルカ 24:1-49

ヨハネ 20:1-25

に書かれている。

女たちが来たときは、岩が墓からどけられていた。

当時、マグダラのマリア（マリア・マグダラ）とヤコブの母親マリアがいた。

ヨハナももちろんしていたが、俺は特別な話なのでマグダラのマリアと感動的な出会いのエピソードにしたかったから、福音書のどれかにはそう書かせたいと思っていた。

だから、ヨハネによる福音書20:11から18は、そういうドラマ的脚色がある内容になっている。

マグダラのマリアは、まあまあ可愛かったんで、ここで「結婚しましょう」と言ってもよかったが

マグダラのマリアと結婚した場合、人々の目からは救世主ではなくなってしまうので、俺は救世主としての使命を優先して、「天に行けば、また会えるので、そのときに一緒にすごしましょう」と清く言うにとどまっていた。

マグダラのマリアと結婚したい気持ちは神にも無い訳ではなかったんで、その気持ちを福音書にマグダラのマリアとの感動的なエピソードにして書かせることで解消しようと思った。

弟子の女達は、「人の子は必ず、罪深い人々に引き渡されて杭に掛けられて死に、3日目に生き返る」と言っていた俺の言葉を思い出して、走っていった。

喜びいっぱい走っていった。

このとき、弟子マリアは、俺のことが好きだというそぶりで駆け出してきた。

足もさわられた。

俺は、「使命があるから、お前に触われてはいけない。まだ天にあげられていないのだから。」と言って断った。

俺は、その後、エルサレムで弟子の前に現れて教えを説いた。

特に重要な内容は

ヨハネによる福音書

20:23 あなたたちが人の罪を許すなら、それは許されています。あなたがたが人の罪を許さないなら、それは許されていません」。

これは因果応報で教えた内容になる。大原則だ。

20:29 イエスは言った。「私を見たので信じたのですか。見なくても信じる人は幸福です」。

次に俺は、弟子達に「ガリラヤに行けば、また私に会える」と言った。

ここまでの33年の二サン16日のことであった。

俺は、その後も弟子の前に現れて教えを説いた（マタイ 28:16-20、ヨハネ 20:26-21:25）。使徒行伝では生き返ってから40日間俺が話したと書いてある。

ヨハネによる福音書では、ティベリア湖で弟子が釣りをしていた。

153匹の魚が俺の奇跡で捕獲できたと書かれている。

ガリラヤ湖の西岸部をティベリアというが

ティベリア湖はガリラヤ湖又はガリラヤ湖の西岸部にあたる。

だから、弟子達がガリラヤに来たととらえて読んでいくとよい。

・大宣教命令（マタイ 28:19）

マタイによる福音書では、その後弟子達はガリラヤに行ったと書かれており、ガリラヤで、俺から大宣教命令を受けたと書かれている（マタイ 28:19）。

・昇天

次は、33年のイヤル25日の話になる。

ルカ 24:50-53 と使徒 1:9-12 に、昇天の記載がある。

ルカ福音書では、ベタニヤで俺が天にあげられたと書いてある。
それから弟子達はエルサレムに帰ったとある。

使徒行伝ではオリーブ山で俺が昇天したとある。



オリーブ山というのは、エルサレムのすぐ東側にあって、ベタニヤとエルサレムの間くらいになる。

オリーブがよく採れる所で、近くにあるゲッセマネもオリーブがよく採れるのだが、意味としては、昔から、今から3000年前くらいからユダヤ人の墓地として使われてきたのだ。神殿の丘より80メートルくらい高い丘になっているから（今回来た俺の苗字にも岡=YHVH 又は YHWH の文字が入っている）神殿が一望できるので巡礼の場所にもなっていた。

70年のエルサレム包囲戦の際、第10軍団のローマ兵がこの丘に陣取った。

ここに当然布陣するのが戦い方だが、ここからだ色々な投石兵器を使用できる。25kgの石を2ハロン（400メートル）以上投げることができた。

この戦いでエルサレムの第二ユダヤ神殿やエルサレム市街は破壊された。

こういう訳で、俺が暴れたときに「神殿を破壊してやる」と密かに言っていた預言も成就したのだ。

「イエスではなく、私達の王はカエサル一人だけだからカエサルに従う！」と処刑の前に叫んでいた民衆は、ローマ帝国に反乱を起こして、報いを受けたのだ。

これによって俺の心はすっきりとはれた。

ユダヤ人は本当にいつも反乱や戦争を起こすことが好きな民族だと思っていた。
その後は、祭りというオリーブ山でやっていたものだった。
ここまで深い造詣を知っているとなぜ俺がオリーブ山を昇天の地を選んだかが分かるだろう。

俺は、昇天した所はオリーブ山だったと思うが、弟子によってはそこをベタニヤに含めて書いてしまっているというのがルカだろう。近いスポットだから、ベタニヤに含めて書いている。

正確にはオリーブ山の東側の麓（ふもと）がベタニヤなのだが、
福音書も大分年数が経ってからのものだから、6年間通っていた大学でも卒業してから10年も経つと周りの地理も忘れてしまうものだろうし、20年も経つと色々な所に行っていた人だと県内の話なら市と市の話と同じにってしまうくらい忘れてしまうだろう。
書いているときの精神状況の違いも、筆致に差をもたらすだろう。

だが、何よりも、これは異次元の世界を1つに結合させた大規模な奇跡であることを忘れないように。
イエス・キリストの到来自体が奇跡に包まれていたのだから、その事情を知っている俺しか、これを伝えられる存在はいない。

イエス・キリストは、確かに存在していたが、
その存在は、全次元において、まるで等しいかのようなストーリーを持ちながらも細部においてはエピソードが異なるシナリオになっていた。
過去7回以上イエス・キリストの伝記を実体験してきた俺が人間に伝えることは、ヤーウェを神と崇めるなら、その化身であるキリストは、無限に存在すると考えるべきだということだ。
イエス・キリストは、この後天上界でアーモンとよく戦うことになったのだが、その話は、『大天使ミカエルインカーネーション』の大天使ミカエルの話になる。

2000年くらいしてまた地上に到来して、悪魔と戦い、その世界は滅んでしまったが、別のよく似た地上に再臨し、この自叙伝を書いている。
その俺がイエス・キリストであり、大天使ミカエルなのである。

俺の自叙伝は、ここまでである（ここまで半日で記載した内容）。

14. 『大天使ミカエルインカーネーション』へつながる

ここまで読んだ人間は、この福音書とあわせて、同じく俺が書いた『大天使ミカエルインカーネーション』(<https://michael-incarnation.seesaa.net/>)も視聴及び閱讀するとよいだろう。

こちらは、イエス・キリストが昇天後に、次は人間ではなく天使に身をやつして天使を内から導いて天魔戦争の舞台となっている天上界を救っていくという大天使ミカエルの視点から書いた体験記になり、イエス・キリストの視点から教えたキリスト教（福音書）とは別の視点から同じキリスト教を教えている。

キリストの時は隠れたガイドスピリットエルランティに導かれて行ったので、愛の視点から3年程しか活動を行っていなかったが、大天使ミカエルの場合は天の軍団長（神の戦争を代行している戦神）になるので、戦争の視点から愛への目覚めを書いている。

天上界の視点から書いていることが多いから、より天の秘義を公開している内容になる。福音書の教えがより深く理解できる内容であるとともに、今日の戦争社会においてはよりキリスト教の実践的かつ効果的なストーリーになっている。

聖書で伏せられていた大天使ミカエルの経験を追体験できる仕組みにしておいたのは、俺が神 YHVH だから可能となった特典であり、単体としても祭儀に使えたり信仰者の身を守る霊的アミュレットになっているのだが、天罰を避けて幸福を成就するためには（イエス・キリスト・インカーネーションと4福音書と）あわせて活用して学習していくことが必須になっている。

イエス・キリストの話は、信仰者のあるべき姿を俺がイエスになって手本を示したぬるいストーリーになるため、全人類にはとびつきにくい内容になっているが、大天使ミカエルの刺激的な戦争のストーリーから語れば、愚かな人類にとってはより好まれる内容ではないかと考え、この体験記を起こすことにしたのだ。

従来のキリスト教では具体例を教えていない、どうしようもない破滅（絶体絶命の窮地）からの救いのルートをよく教えている具体的かつ実践的な教えになる。最後の審判が近づいてきて、より破滅が迫っている人類にとっては、早い段階から別の弁護者（大天使ミカエル）の教えが得られることは益になることだ。

--著者：イエス・キリスト（大天使ミカエル又は神祖 YHVH。三位一体として。）--

posted by 唯一神 YHVH at 08:18 [My Biography of Christ](#)

[1 "Jesus Christ ..](#)